

多摩デポ通信 第61号

特定非営利活動法人共同保存図書館・多摩

2022年11月19日発行

〒182-0011 調布市深大寺北町一・三一・一八

●HP / <https://www.tamadepo.org/>

●E-Mail depo_tama@yahoo.co.jp

『通信』夏号を出せないで
きたことのお詫びと

この間の活動報告

会員の方には6月に総会報告の封書をお送りしていますが、『多摩デポ通信』は初めて、季刊発行を維持できませんでした。申し訳ありません。

コロナ禍もあって会員に参加を呼びかける企画を作れずになりましたが、内部では活動を進めてきました。今号は、それらの様子をお伝えします。

また6Pからの記事にあるように、まもなく作業ボ

ランテアを募る予定です。
よろしく願います。

総会記念講演会の 動画の一般公開

会員には8月から公開していた講演会「地域資料とデジタルアーカイブ」の動画は、10月から会員に限らずどなたにでも見てもらえるようにしました。インターネットの検索窓に、「YOUTUBE 多摩デポ」と入れれば、保坂一房氏の講演にアクセスできます。多摩地域全体を範囲とした貴重な郷土資料施設の活動の一端を知ることができます。

どうぞ会員外の方にも紹介してください。



5月28日に開催した2022年度総会

またブックレットを作る作業を進めています。講演を大幅に増補し、「たましん地域文化財団歴史資料室」の今を紹介するものになります。刊行は年度末の予定です。次第、会員の皆様にはお送りします。

最近の「里親探し」

多摩デポでは、「図書館資料の里親探し」を行っています。図書館が、図書館資料として再活用させたい資料を、必要としている図書館を探し出して譲渡の仲介を行う事業です。

今年度の対象資料は「全集」、「参考図書」、「地域資料」、「多摩地域図書館各館が特殊コレクションとして収集している分野の図書」ですが、このほかの基本図書も相談をお受けしています。今年度に入ってから2自治体から、自館では所蔵がある寄贈本についての依頼がありました。

5月31日には東久留米市立図書館から1タイトル3冊の地域資料の依頼です。事務局ではいつものように各自自治体の所蔵状況を調べ、里親に応募いただける可能性のある5自治体にFAX

や郵送で募集をかけました。あきる野市から申し込みがあり成立です。事務局員が東久留米市に現物を取りに伺い、電車に乗って6月25日にお届けしました。

2回目は8月15日に府中市立図書館から、5タイトル計169冊のシリーズ本の依頼です。

すぐに各図書館の所蔵調査を行い、欠本状況も個別に記載した募集案内を作つて募集をかけました。最終的には8自治体から53冊の応募が来ました(同タイトルに希望が重なり、公表している優先順位ルールで割り当てることになり、希望の本がお渡しできないこともあります)。今回は幸いにもほとんど重複することなく51冊の斡旋が成立しました。成立した本を9月中旬以降に府中市から受け取り配達を行いました。こちらには4人の理事、事務局員

が手分けして、車、電車、自転車で運びました。

配達先のどの図書館でも、カウンターで用件を伝えるとすぐに理解され、「これで品切れになって手に入らなかった全集の欠本を埋めることができます」などと、大変喜んでくれます。

新型コロナウイルスの蔓延が拡大する時期には、提供していただいた本を自ら届けるのではなく、宅配便を使って届けようかという議論も内部にはありましたが、配達した時に会おう手ごたえはありがたいです。

提供を申し出てくれる件数はひとところより減っているのですが、「図書館資料の里親探し」という事業は、多摩地域の図書館界では、かなり周知されていると思われまます。



図書館長協議会のサービス研で配布・回収していただいたアンケートの結果と、見えてきた多摩地域の図書館の共同保存をめぐる実態について

市町村立図書館長協議会図書館サービズ研究会と連携し、各自自治体にアンケートを取ってもらいました。それを通じて共同保存や多摩デポ活動についての実態や課題が見えてきました。かいつまんで報告します。

I このようなアンケートを取りました

今年度から市町村立図書館長協議会の研究組織、図書館サービズ研究会(以下「サ研」と略)の会長事務局が変わり、東大和市立図書館に担当が移ったので、昨年度以来協調してきた多摩デポと「サ研」との共同

事業(3月には、府中市の自動出納書庫資料の点検にTAMALAS一括処理システムを活用した事例報告を職員研修ビデオに作成、多摩地域の職員に研修として視聴してもらっていた)の継続や、新たな連携・協力を考えて、担当館長と協議を持ちました。

「サ研」は、館長協議会の中でこれまで除籍資料担当者会が担ってきた事業を引き継ぐことになり、この担当者会と多摩デポは長く連携してきた経過があるので、会長の東大和市立図書館長は丁寧な相談に応じてくれました。

多摩デポが提供しているTAMALASは図書館現場では使われていると思われるが、それはどの程度なのか。一括処理システムをもっと使ってほしいがどうしたらいいのか。また(職員を対象に始めた)多摩デポ実践

講座は、第3回を5月に一括処理システム紹介を図るため企画を工夫して行ったが、参加者が少なく、再考が求められていました。

そこで、①TAMALASがどのくらい役立つているのか検証したい、②個別処理システムの活用実態を明らかにして、多摩デポ実践講座は、個別処理をサポートする内容で講座を持つほうがいいか、そうではなく一括処理の普及・活用に力点を置くほうがいいかを判断したい、③各自治体の図書館職場のZoomのアクセス環境の把握などに絞ってアンケートを取れないかなどと協議を重ねました。

II 質問内容と回収できた結果

「サ研」会長名で9月12日に各自治体へ調査依頼がされ、約1か月で30の全市

町村から回答を得ました。各自治体から得られた意味は大きいと思います。

以下、質問と代表的な回答を紹介します(数字は回答自治体数。回答は趣旨を変えずに加工しています)。

1 TAMALAS個別処理システムを使用したことがありますか

- (1) 使用頻度
- ・ 随時使用 19
- ・ 月1回程度 4
- ・ 週1回程度 4
- ・ その他 1(数回)
- (複数回答あり)
- ・ 使用したことがない 3

(2) 使用場面

- ① 除籍候補の検討の絞り込みに使用 25
- ② 除籍を前提としない検討、絞り込みに使用 4
- (3) 具体的な使用場面を教えてください 22

↓代表的な意見は、絞り込みに使用することが殆どで、除籍の最終工程、最終判断に使用(5市1町)、除籍の絞り込み(3市2町)、ラスト1、2の該当チェック(3市)、除籍候補の他市状況確認(2市)、除籍作業の参考となる情報収集(2市)、相互貸借での依頼先の検討に使用(1市)などでしたが、おそらく相当に重複して使用されていると思われるます。

2 TAMALAS一括処理システムを使用したことがありますか

- (1) 使用頻度
- ・ 随時使用 1
- ・ 月1回程度 2
- ・ 週1回程度 0
- ・ その他 3
- (2) 2か月、2回程度、不定期、
- ・ 使用したことがない

(2) 使用場面 (未回答1)

- ① 除籍候補の検討、絞り込みに使用 5
- ② 除籍を前提としない検討、絞り込みに使用 1

(3) 具体的な使用場面を教えてください 7

↓具体的な記入例でも、前問同様、除籍の絞り込み作業に使用する例が多くなっています。ここでは「一括処理」であることから、広範囲に網をかける方法として定着してきたと言えそうです。

3 TAMALAS(個別処理・一括処理を問わず)の活用状況について

↓ここは「①TAMALAS公開以前」「②公開以後」「③現在」の時系列3区分について、「TAMALASで確認」「東京都立統合検索で

確認」「確認していない」のどれが該当するかクロス表にして質問しました。「④今後」については後述します。

↓回答29自治体で計11パターンとなりましたが、最も多かった回答パターンは、「①は都立、②③ともTAMALIASと都立で確認」(14市1町)でした。

また、③(現在)では、「都立やTAMALIAS」(3市)、「TAMALIASのみ」(4市2町)、「都立のみで確認」(4市)でした。↓この結果でTAMALIASが未使用なのは、5市のみですが、自治体全体としてではなく、一部の館では使用している、これから検討する、新館完成後に本格的に取り組むなどの諸事情も伺えます。

④「今後(予定)」についてお聞かせください。 24

↓最も数が多かったのは、TAMALIASと都立の検索の併用を今後も継続していくというもので、代表的な意見としては、「TAMALIASはISBNコードのあるものに活用、それ以外は都立統合検索を活用、ラスト2自治体を調査する」というものです。

4 TAMALIAS(個別処理、一括処理)についての改良点、気になるところ、こういう使い勝手になれば使用したいなど、ご意見をお聞かせください。 16

↓多くの自治体から「ISBNのない資料もまだまだ所蔵しているの、TAMALIASに一元化できないところが悩みどころ」という声が多く寄せられました。また「ラスト1、2の結果表示色を

変える」「書名検索機能の充実」「古書DBとの横断検索」などの細部に意見もある一方、「一括処理はデータの準備やIDの入力など手間がかかるのであまりメリットを感じない」というご意見もありました。

5 3月10日に開催した図書館サービズ研究会・多摩デポ共催による研修動画について、ご覧になった方の感想をお聞かせください。(回答数) 7

↓回答数が少なく結果も具体的な感想が寄せられたとは言い難く、このビデオをどれだけの職員が視聴できたのか、最後の質問と合わせて考えると、再考の余地が大いにありそうです。

具体的にご意見では、「過去の除籍をめぐる経緯や除籍にまつわる共同

保存書庫、マニュアル作りについてはあまり触れられていなかったの、客観的な資料や状況について、もっと知りたい」などの声は生かしたいと思います。

6 Zoom等が視聴できる環境の実態について、自治体内図書館合計で可能な台数を教えてください。 36館 計140台

↓視聴できる環境にあるという自治体は13市1町、使う時は本庁などから借りるが12市でした。まだまだZoomの視聴環境が整備された状況にないということが判明しました。

III アンケートから見えてきた実態

箇条書きにしてみます。
・多摩地区図書館での除籍作業の大幅な軽減を目指し

て開発された(株)カーリルとの共同開発の結果は、TAMALIAS個別処理や一括処理システムによって、その開発意図は十分に理解され所期の目的は達成したと考えられると思います。

・一括処理システムがなかなか普及しない現状については、これでしかできない領域があるのに入り口で手間がかかるのと敬遠気味なことから、具体事例を多くの職員に見てもらい、理解して使う気になってもらう必要があると考えます。

・TAMALIASについて、ISBNが付いていない書誌の検索ができない不満は、TAMALIASがそれだけ日々の作業に食い込んできたからであり、要求レベルも高くなるのは必然であると思われると思います。

・TAMALIASに並んで都立統合検索を併用する自治体が過半数に及び、これらを

統合したシステム開発が待たれるところです。

・各自治体でのZoom環境が均質なものではなく、自治体全体の中での調達など課題を抱えながらの現状が把握できませんでした。全職員を対象にする研修会や講座の開催には、一定期間視聴できるオンデマンドが有効ではあるものの、視聴漏れや確実性には欠ける面もあり、可能な限り、Zoomによるオンラインとの併用型を模索する必要があるのではないのでしょうか。

・多摩デポ実践講座の開催についても、一括処理システムの普及の講座については、時期、視聴方法などの検討を、「サ研」と協議を重ねながら今後は進める必要があるのではないかと考えています。

(中川)



『現代の図書館』への 投稿論文掲載

日本図書館協会が季刊で発行する論文誌に『現代の図書館』があります。その最新号に私たちの論文が掲載されました。

『現代の図書館』Vol.98 No.2 2022.6』(日本図書館協会 奥付は8月25日)で、論文名は「専門図書館の蔵書の書誌に対するISBN大量遡及入力の実践―たましん地域文化財団歴史資料室を事例に―」(齊藤誠一、保坂一房、吉本龍司共著)。内容は、多摩デポと(株)カーリル、(公財)たましん地域文化財団歴史資料室(以下、「歴史資料室」という)が共同で実施したISBN(国際標準図書番号)の大量遡及入力作業の経過報告です。

多摩デポは、資料同定へのISBNの有効性を認識

し、2016年からは「多摩地域公共図書館蔵書確認システム(TAMALIAS)」を公開して、ISBNを使って容易に図書館の所蔵確認、同定ができるようにしてきました。

昨年度からは、カーリルとの共同研究定例会に「歴史資料室」の保坂氏にも参加してもらいました。その中で「歴史資料室」の蔵書データにはISBNが入力されていないことがわかりました。そこで「歴史資料室」の蔵書データに、カーリルのシステムを使って機械処理によるISBNの自動附番を試み、附番された番号の適否を会員から協力者を募って検証しました。そうした経過を報告した論文です。

公共図書館でも現物の本にはISBNが付与されているのに、蔵書データにはISBNが入力されていない

い資料があります。ISBNが出版物に導入され始めた頃の目録にはリスクは高いのです。そんな古い蔵書のデータ整備にも使える、ISBNの自動附番や大量の遡及入力（さかのぼって入力すること）の可能性を考えてもらえればいいと思います。

この取り組みによって、「歴史資料室」の蔵書データにISBNが入力され、蔵書がTAMALASで検索できるようになりました。多摩地域で共同保存する（最後の2冊）のカウントには含みませんが、ある資料が、郷土資料が豊富な「歴史資料室」には所蔵されているかが確認できるようになっています。

論文は12月初旬には多摩デポのウェブサイトで公開し、誰にでも読んでもらえるようにする予定です。

多摩地域の図書館資料へのISBN遡及入力

―府中市立図書館を対象にモデル事業の開始―

1 背景といきさつ

公共図書館の多くでは1990年から2000年代にかけてコンピュータが導入されました。それは貸出・返却手続きの電算化であるとともに、目録や蔵書管理の電算化でもありました。以前から活動していた図書館はこの時に、「紙の目録カード」にあった情報を電算データに移しました。多摩地域では全国に先駆け1970年から80年代にはどこも図書館を始めていきましたから、どの自治体の図書館もこの大きな変化を経験しています。

一方、日本の市販出版物（本）には1980年代初めから徐々にISBN（国

際標準図書番号）が付与されるようになります。本のタイトルごと規則に基づいた違う番号を付けて物品管理する発想は、番号が付いた本が市場の大半を占めるようになるまでは、あまり重視されませんでした。特に（出版流通界ではなく）図書館の世界では、記入する目録の必須事項であるとの認識は最初は高くありませんでした。

図書館の「紙の目録」には、ISBNが存在しなかった頃の本ももちろんありますが、ISBNが開始された以降の本もありました。ISBNが付与された本でも、手書きで作った目録などでは、当初はISBNが記載されないままだった可能性があります。

図書館では、蔵書管理がコンピュータに置き換わった段階で、「紙の目録」の情報に移して蔵書の電算デー

タを作りしました。その後、MARC（市販の電算書誌）を買ってデータの上書きをした図書館もありますが、本には付与されたISBNが目録データにないままの図書館もあります。ISBNが目録データにないのでTAMALASで拾えず、他の図書館との本の同定がしにくいことになりました。

開館が早かった図書館ほど、古い本を所持し続けている図書館ほど、この課題の可能性があるので。

多摩デポは「たましん」の「歴史資料室」の資料データへのISBN遡及入力を行うことができました。

この目録整備の経験を手ごたえに、多摩地域の公共図書館へのISBNの遡及入力事業を始めることにしました。

各図書館が所蔵する本の目録にISBNを遡及入力して目録精度が向上すれば、

蔵書管理や他館への予約などがしやすくなるとともに、TAMALIASで判別できる範囲が増えるので、共同保存を確実に進めることにもつながると考えます。

2 府中市立図書館の協力によって

この公共図書館の蔵書データへのISBN追加及入力の作業を府中市立図書館の蔵書データについて行えることになりました。

具体的には、「歴史資料室」で行ったISBN追加及入力の手法を踏襲し、カーリルのシステムを使って機械的にISBNを附番してもらおう。その後、個々の書誌情報にISBNが正しく附番されたかの検証を行い、データをお渡しし、最終的には府中市の蔵書データにISBNを反映してもらおうという流れになります。

基本的な作業の態様は、次のとおりです。

(1) 府中市立図書館の1983年から約10年分の資料でISBNが入力されていない資料のExcelデータをもらいカーリルのデータベースと突合し、ISBNが自動附番されたリストを作成する。

(2) マニュアルは、昨年「歴史資料室」の作業の際に作成した「ISBNの追加及入力作業マニュアル」を改訂して使う。

(3) 上記のマニュアルをもとに多摩デポ会員の協力を得て、ヒットしたISBNが正しく附番されたかの精度確認・検証を行う。なお、検証するデータ（地域資料、児童書、一般資料）の優先順位は、府中市の意向に沿う。

(4) 以上の作業を経て、ISBNが正しく附番されたデータを府中市に返し、

データに反映していただく。これはモデル事業であり、結果を踏まえて多摩他の図書館も普及を呼びかけたかと考えています。協力していただけける府中市立図書館には感謝しています。

カーリルでは自動附番の精度を高める研究にも着手しています。それも今後お伝えしていきますが、この事業は、カーリルの技術と多摩デポ会員の書誌情報を正確に判別する能力のコラボによって、正確な追加及入力を実現するものと考えています。

3 精度確認の協力者を募ります

事業には会員の皆様にご協力をいただくこととなります。確認・検証が必要な数が確定するのは12月中旬くらいになるかと思えます。数の確定後、メールリングリ

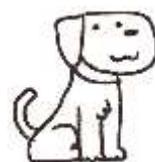
ストで作業を具体的に説明し一緒にやってもらえる方を募集します。ぜひ参加を考えみてください。

作ってみよう！

犬ガムで羊皮紙もどき

八木健治氏は自作の羊皮紙を売る奇人な人。新著『羊皮紙の世界』（岩波書店、9月）にはこんな面白いコラムあり。

ペット犬に与える犬ガムは水につけると一時間で生の牛皮に戻る。それを開き四隅に曲げた針金を掛けて引っ張る。百円シヨップで売る写真フレームを型枠にするとよい。一日乾燥させ、紙やすりで研磨すると滑らかなヴェラムが完成。絵や文字を描いて楽しもう、と。



多摩デポからの メーリングリストは 届いていますか？

デポ会員の情報交換の場として活用いただいているメーリングリスト（ML）は、メールアドレスを事務局に登録している会員に配信されます。

実は情報発信の度に、管理者には不着となった宛先に関する通知が届きます。不着の理由は「アドレスが見つからない」「メールアドレスが一杯」など、いくつものパターンがありつつも様々です。共通点是对処法が、不着となっている会員ご自身に対応していただくこと必要ということ。しかし発信は不定期なので、ご自身にMLのメールが届いていないことは気づきにくい仕組みだと思えます。そこで、今回は受信調査を実施することにしました。

手順1

次の2通のメールを事務局から発信します

- ・テストメール1…12月3日発信 本文のみ
- ・テストメール2…12月10日発信 添付ファイル付

会員の方は、受信できているかをご確認ください。2通とも受け取れていれば、テスト終了です。

手順2

テストメールが届かない場合は、状況をメールで事務局に知らせてください。宛先はこちら ←

depo_tama@yahoo.co.jp

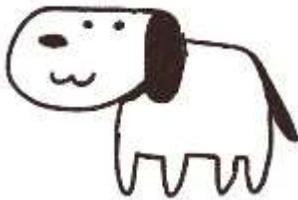
または、多摩デポHPの問合せフォームからメール件名…テストメール 不着
本文…氏名、電話番号、受信できなかったテストメール 1か、2か、両方か

手順3

連絡をいただいた場合は事務局が不着の原因を確認し、個別にメールや電話で対処法を相談いたします。なお不着に限らず、ご不明な点などは、いつでもお尋ねください。

また多摩デポの活動に接点のある情報のMLへの発信は、事務局への連絡は不要で、直接MLアドレスに送信できます。ぜひご利用ください。

MLアドレスはこちら ←
depoibrary-tama@tamadepo.sakura.ne.jp



□ 今号の内容 □

- ・欠号のお詫びとこの間の活動報告
- ・最近の「里親探し」
- ・多摩地域の図書館から回収できたアンケートから見えてきた実態
- ・『現代の図書館』への論文掲載
- ・多摩地域の図書館資料へのISBN遡及入力（府中市で）
- ・（コラム）犬ガムで羊皮紙もどきを
- ・メーリングリスト届いていますか
- ・会の現勢

★会の現勢

2022年11月15日現在

●正会員

（個人） 80名

（団体） 2団体

●賛助会員

（個人） 35名

（団体） 2団体

●年会費

正会員 五千元

賛助会員 一口二千元

会費未納の方は納入をよろしく願います。